

戦争準備NO!! 日本政府は禁止条約の署名・批准を 5月28日(日)田辺市集会・2023年原水爆禁止国民平和進行



5月28日(土)晴れ。田辺市の集会です。集会前に、田辺市原水協津村光男さんと西牟婁原水協の檜山さん、県事務局で総務課を訪問。市長記名入ペナントと市長、議長からの協賛金を受け取ります。

田辺市集会は、津村光男さんの進行です。主催者挨拶です。岡田正和弁護士は「2021年核兵器禁止条約が発効し、現在批准国は69ヶ国、調印国は92ヶ国となっています。昨年6月オーストリア・ウィーンで核兵器禁止条約第1回締約会議が開催されています。核兵器の非人道性を再確認すると共に、核兵器に依存した安全保障を批判し、条約への参加促進や核被害者の救済や援助など、条約の内容を実現する方策を盛り込んだウィーン宣言や具体的な行動や計画を定めたウィーン行動計画が採択されています」と禁止条約の紹介をします。真砂田辺市長メッセージです。「我が国は世界で唯一の被爆国であり、一瞬にして尊い命が奪われました。今もなお世界の多くの人達が核兵器の脅威に晒されている状況が続いています。私たちは被爆国としての体験を全世界に向けて訴えて、真の世界平和の実現に務めなければなりません」と、木村晃和副市長が読み上げます。続いて、田辺市議会のメッセージを久保浩二田辺市議員が代読。久保市議は「広島サミットが行われましたが、中身は国民の期待と被爆者の期待を裏切るもの。被爆者のサーオ節子さんは、20日に発表された文書について体温が感じられないと怒りを露わにし、7人のリーダーの思いが反映されてなく核兵器禁止条約にも触れられてないと驚きを露わにしています。又、日本被団協の木戸事務局長は、G7広島サミットで核兵器を事実上肯定し、核兵器廃絶に向けて十分な議論が無かった事を強調し、希望は完全に打ち砕かれた。核の傘の下で戦争を煽るような会議だったと憤っています。今一度、核兵器廃絶に向けた取り組みに力を尽くしていきたい」と連帯の挨拶をされました。最後、わかやま市民生協の川口研さんが決意表明します。集会参加は36人でした。平和行進は、市庁舎を出発し、市内を行進し、再び市庁舎に戻ってきました。5月29日月曜日は白浜町です。県原水協事務局